

## 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	卒業生コミュニティの強化による再チャレンジ支援学習プログラムの開発と実施		
法人名	学校法人 滋慶学園		
学校名	東京医薬専門学校		
代表者	理事長 浮舟 邦彦	担当者 連絡先	学部長 菅原大輔 TEL 03-3688-6161

### 1. 事業の概要

離転職は、雇用者側の人材ニーズと被雇用者の適性のミスマッチによって起こる場合が多い。本校の卒業生は、研究・開発の最前線で活躍している者も多いが、そのような現場では人材の流動性も高い分ミスマッチも起こりやすく、また、スキルアップのために転職せざるを得ないケースも多く見られる。このような状況では、本来、良質な情報に基づいた適切な離転職の判断が求められる。

そのために、活躍している多くのOB・OGに教員を加えた卒業生コミュニティを構築し、そこで有益な情報を幅広く交換できれば、進路に関する参加者の適切な判断をすることが可能になる。

以上のような認識に基づいて、本事業の目的はSNSを活用した卒業生コミュニティを構築することである。さらに動機付けの維持・向上やキャリア形成を支援する学習コンテンツによってOB・OGの再チャレンジを支援する学習プログラムを開発・実施することである。

構築する卒業生コミュニティでは、SNSが持つ一般的機能に加えて、学校側が、転職成功例、求人・求職情報、キャリアカウンセリング情報、資格取得に役立つ情報など、動機付けやキャリア形成を支援する学習コンテンツを提供する。

また、このとき、SNS上でやり取りされた情報の分析によって、OB・OGのニーズを適切に把握し、その結果をフィードバックしてコンテンツ制作に役立てるなど、再チャレンジ学習にとって価値ある情報やコンテンツを継続的に提供できる仕組みを合わせて構築した。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的は、卒業生コミュニティとしてのSNSを構築し、そこに再チャレンジを支援するコンテンツを展開することであった。再チャレンジを支援するコンテンツの候補は数多くあがったが、その中から選定して提供した。しかし、60名弱が参加したSNSが実際に稼働を始め、再チャレンジ学習のベースとしてニーズの大きい「ヒューマンスキル」の学習プログラムを提供したことにより、当初の目的はほぼ達成したと評価している。

#### ②事業により得られた成果

キャリア形成を支援するものとして、卒業生のニーズが大きかった「ヒューマンスキル」の学習素材として、平成17年度文部科学省専修学校先進的教育研究開発事業、「総合的ヒューマンスキル強化プログラムとスキルアセスメントシステムの開発と実証」(学校法人石川学園)をeラーニングコンテンツ化し、提供する学習プログラム(120時間)を開発した。その具体的内容は次の通りである。

- 1 インTRODクシヨN(8時間)
- 2 セルフマネジメント(16時間)
- 3 戦略的シヨウ(8時間)
- 4 ロジカルシンキング(論理的思考力)(16時間)
- 5 情報収集(8時間)
- 6 アンケート・ヒアリング(8時間)
- 7 データ分析(16時間)

- 8 プロブレムソルビング(問題解決力)(16時間)
- 9 実行マネジメント(8時間)
- 10 プレゼンテーション(16時間)

### ③今後の活用

このSNSは本事業終了後も稼働させ、平成21年度中には、取り扱い対象を広げ、かつ、コンテンツの内容の充実を図り、本事業をきっかけにしてできた卒業生コミュニティの輪を有益に活用していきたい。

### ④次年度以降における課題・展開

コンテンツとして提供を検討していたもののうち、就職・転職ノウハウコンテンツについては、提供・交換する枠組みを構築して基本的な情報の交流を図るレベルに止まっている。今後はSNSの参加者の範囲を生命技術工学科OB・OG以外にも広げ、より活発な内容の情報交換ができるようにしていきたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①履修証明書等

卒業生を対象とした事業であるため、特段の履修証明書などは発行しなかった。

### ②カリキュラムの内容

本事業では、まず卒業生コミュニティとして、インターネットの上にSNS(Social Networking Service)を構築した。その上に再チャレンジ学習を支援するプログラムの提供として、以下のコンテンツの候補として検討した。

- ・動機づけコンテンツ
  - ア 転職の経験談・成功例・失敗例を紹介したコンテンツ
  - イ 求人・求職の状況や転職における留意点を説明するコンテンツ
  - ウ 離転職の実例に取材したケーススタディ
- ・キャリア形成を支援するコンテンツ
  - エ キャリア形成に役立つコンテンツ
  - オ 資格取得を支援するための諸情報(合格のポイント、学習のコツなど)
  - カ 関連各業界の最新情報

委員会・分科会における議論を経て、本事業では、これらのうち「エ キャリア形成を支援するコンテンツ」として、ヒューマンスキルの育成教材(平成17年度文部科学省専修学校先進的教育研究開発事業、「総合的ヒューマンスキル強化プログラムとスキルアセスメントシステムの開発と実証」、学校法人石川学園)を素材にして、eラーニングコンテンツを中心とした再チャレンジ学習プログラム(120時間の学習時間)を開発した。

### ③講座の実施

実証講座は、ヒューマンスキル育成教材をeラーニングコンテンツ化しながら、平成20年12月下旬からSNS上で公開する形で実施した。SNSは12月初旬までに構築を終え、当初49名のOB・OGが参加したが(最終的に56名)、平成21年2月20日までにeラーニング形式で受講を実施するよう、コミュニティ参加者に求め、最終的に18名の参加者が所定の学習プログラムを終えた。

学習プログラムの修了者に対するアンケートを実施したところ、内容に対する興味、役立ち感、分かりやすさのいずれの点においても高い評価を得た。中でも、問題解決力やデータ分析力を高めることなど、実態調査においてニーズの大きさが認められたテーマについて、特に高い評価が得られた。

#### ④支援対象者(受講者)の状況

本事業の中でSNS参加を呼びかけた対象者は、本校の生命技術工学科のOB・OGで、最終的に参加したのは56名(男性29名、女性27名)であった。また、離職者は10名で、その内訳は男性3名、女性7名であった。なお、生命工学技術科の1期生は1988年に卒業しているが、今回参加した56名のうち、1988年～1999年に卒業した者が19名、2000年～2007年に卒業した者が22名、残る10名が昨年(2008年)卒業したばかりのOB・OGである。

再チャレンジ学習支援の直接的対象者は離職中の者であるが、本事業では、在職者も含めた再チャレンジ学習を支援する教育プログラムを開発した。その理由は本校の卒業生が進む業界の人材雇用特性にある。

すなわち、生命技術工学科の卒業生は、バイオ関係企業、大学、食品・化粧品関連企業等の研究所組織に就職するケースが多いが、研究所における業務は、有期限の「プロジェクト」単位に行われる業務が多いため、非正規雇用の割合が比較的高い。また、雇用形態はどうあれ、もっと成長できる可能性をもっているにも関わらず、研究所組織における比較的単調な実験業務に就いていることに疑問を感じ、転職を考えるケースも少なくない。

また、このような業界特性から、転職を繰り返す中でスキルを向上・拡張させる考え方が成立するケースも少なくない。したがって、再チャレンジの概念を広くとらえれば、本校卒業生の多くが常に再チャレンジニーズをもっている状況にあるため、実証講座では、参加者が在職中か離職中かを厳密には問わないことにした。